

■上野英信 自ら選択して炭鉱とともに生きた作家。

うえのえいしん

関東大震災・1923＝ 山口県吉敷郡井関村(山口市阿知須)で、船乗り上野彦一の長男に生まれる。母ミチ。本名は上野鋭之進。
湖面のように波静かな内海に親しんで育つ。
昭和初期の恐慌で廻船業が大打撃を受け、
海軍軍縮条約1930＝ 7歳：父が洞海湾浚渫の船員に転職、家族で福岡県八幡市黒崎に引越し、八幡市立黒崎尋常高等小学校に入学。
五一五事件・1932＝ 9歳： 鉄都の下層労働にたずさわる人びとが体を寄せ合って暮らし、
二二六事件・1936＝13歳： 福岡県立八幡中学校に進む。

日米開戦・・1941＝18歳： 満州国新京特別市(現長春)にあった建国大学に入学。本流をはずれた文教学科に進み、
中国の哲学書や文学書を読みあさるとともに、「明治の三風」の文学者登張竹風にドイツ語を学ぶ。
創価学会検挙1943＝20歳： 第一回学徒出陣兵として奉天省の山砲兵連隊に入営、甲種幹部候補生となる。

敗戦・・・1945＝22歳： 広島市宇品の船舶砲兵教導隊を首席で卒業、教導隊の教官として広島に残るうち、原爆投下で負傷しながら、
救護にあたり、敗戦で阿知須へ復員。引揚者援護の仕事にたずさわり、悲惨さを目の当たりにする。
新憲法公布・1946＝23歳： 京都大学文学部支那文学科に編入学して青木正児に師事する一方、能美島に帰郷していた竹風の恩顧を受けるうち、
関心は詩作に傾き、
新憲法施行・1947＝24歳： 中退。建国大学時代の友人を頼って福岡市へ行く。戦時中の同郷女性との婚約を破棄、父に勘当される。
極東裁判判決・1948＝25歳： *建国大学後輩の父親の案内で、筑豊の貝島礦業大之浦鉱の坑夫の姿に接し、再出発の場所は炭鉱と決め、
小卒と偽って組夫に採用されるも、バレて解雇。日本炭礦高松一坑の掘進夫となる。新設の独身寮に入ると、寮の文芸誌(労働芸術)を発刊し、
巻頭言ほかを執筆。挿絵版画を彫った千田梅二と終生の友になる。
朝鮮戦争始・1950＝27歳： 建国大学時代の親友に呼ばれ、長崎県佐世保の三菱炭業崎戸炭鉱に移る。作業中に足を負傷し、図書館勤務になると、文化サークルの育成にあたり、作家井上光晴を知る。レッドパージの嵐が荒れ狂うなか、

独立回復・・1951＝28歳：
マーデー事件・1952＝29歳： 会社からの執拗な職員採用の働きかけたを拒否して、退職。筑豊に戻るも、原爆症が現われ、五年ぶりに帰郷。離婚した母の実家で静養するうち回復し筑豊に戻る。日本炭礦では労働運動史上に残る長期スト。
テレビ放送始・1953＝30歳： 日本炭礦に再就職し、坑内修理工となるが、取材に来た作家の入坑許可したため、退職させられる。高松一坑の友人たちと筑豊炭坑労働者文芸工作集団を結成、自らガリ版を切って機関誌(地下戦線)を発行。初めて上野英信という筆名を使う。熊本共産党に入党。(地下戦線)は全国機関紙コンクールに入選するが、
自衛隊発足・1954＝31歳： 五号で廃刊。共和企業組合中間支部に職を得ると、八幡に移住し、炭鉱労働者を主人公にした物語の創作に取り組み、千田の版画を添えて四編からなるガリ版刷りえびなし集を完成させると、
55年体制始・1955＝32歳： ルポルタージュ日本の証言第七巻「せんぶりせんじが笑った!」として柏林書房から刊行される。共和企業組合をやめて夜警の仕事などしながら、民話をもとにした創作に着手。原爆症悪化し阿知須に帰って療養するうち、千田の手彩色木版画六十枚の入った「ひとくわぼり」が完成。失業坑夫が群れて住む嘉穂郡二瀬町に入り、飢餓の谷間の人々の呻き声を聞き取る。

国連加盟・・1956＝33歳： 肝臓が腫れてきたため八幡市折尾に移る。畑晴子と結婚。水巻町で生活を始め、長男誕生。日炭高松文学・美術協議会を結成し、(月刊たかまつ)を編集。
なべ底不況・1957＝34歳： 中間に移住。追い詰められていく中小炭鉱労働者のルポルタージュに取り組む。
イスタンブール・1958＝35歳： 隣家に来た谷川雁らと九州サークル研究会を旗揚げ、(サークル村)を発刊し、ルポルタージュを発表。
美智子妃・・1959＝36歳： えびなし集の四編と「ひとくわぼり」を収録した「親と子の夜」が刊行。健康状態悪化で福岡に移る。
安保闘争・・1960＝37歳： *労働者の苦悶の軌跡岩波新書「追われゆく坑夫たち」が大反響となる。谷川らと共産党を除名される。
イタイ病始・1961＝38歳： 七編のルポルタージュと共同調査一編を収めた「日本陥没期」刊行。
TV宇宙中継始1963＝40歳： 次なる作品に向け、香月町の知人宅に滞在し、炭鉱で語られる笑い話を収集して回る。
東京テレビ 1964＝41歳： 小ヤマに戻りたいとの念願がかない、鞍手の廃坑となった炭鉱社宅を改造、(筑豊文庫)と名付けて移住。
大学紛争始・1965＝42歳： *創立記念集会を開き、炭鉱労働者の自立と解放のために闘うことを宣言。以来、来訪者絶えぬ交流の場。
美濃部都知事1967＝44歳： 岩波新書「地の底の笑い話」としてまとまる。この間、報道写真家岡村昭彦が長期滞在し、炭鉱絵師山本作兵衛や石牟礼道子著「苦海浄土」の出版に奔走。

震ヶ関ビル・1968＝45歳：
全共闘ワーク・1969＝46歳： 「どきゅめんと・筑豊」刊行。
トルジョック・・1971＝48歳： 「天皇陛下萬歳」刊行。チツソ本社前の水俣病患者座り込みに加わり、四日間のハンガーストライキ。
石油ショック1973＝50歳： 「骨を喰む」刊行。
角栄金脈辞任1974＝51歳： 南米に移住した坑夫の行く末を訪ね、中南米諸国を回り、連載後、
JALハイジャック・1977＝54歳： 「出ニッポン記」の題で刊行。沖縄に渡り、山入端萬葉の一族についての取材を開始、
成田衝突・・1978＝55歳： 「炭鉱譜」刊行。
革新大敗北・1979＝56歳： 「火を掘る日日」刊行。「ひとくわぼり」が中国で翻訳出版される。「眉屋私記」の連載を始め、
中曽根内閣・1982＝59歳： 炭鉱労働者の歴史を刻んだ写真を収集して回り、
・・・・・1984＝61歳： 「写真万葉録・筑豊」刊行開始。沖縄の近現代史に迫る山入端一族の話「眉屋私記」刊行。還暦兼ねた出版祝賀会。筑豊を砦として続けた文学活動が評価され西日本文化賞。「眉屋私記」が沖縄タイムス出版文化賞。
ジャンボ機墜落1985＝62歳： 前年に死去した山本作兵衛の一周忌に合わせ、飯塚市の嘉徳劇場で「山本作兵衛翁記念祭」を企画し開催。
バブル始・・1986＝63歳： 前年から刊行していた「上野英信集」全5巻、「写真万葉録・筑豊」全10巻が完結し、出版を祝賀会が開かれるも、この頃から、固形物を飲み下すことが困難になり、
竹下内閣・・1987＝64歳： 食道癌と診断されて九州大学附属病院に入院、退院して、「写真万葉録・筑豊」が日本写真協会賞するするなか、脳に転移して鞍手町立病院に入院し、没した。